

## BSHにおける問題点

1960年5月, 6月例会

坂田磨耶子

今回のテーマは、相手がBSHという非常に精選された代物であるため、トシキホーテが水車に立ち向ったような惨憺に  
なるとは思えず、引き下がらざるを得なかった。

問題点として別紙討議資料にも五項目あげた。その中で最も  
一人よがりな点が多かったと反省している。

### 1. NSHからBSHへの移行 (別紙NSHとBSHにおける件名標目の 相違一覧表参照)

この移行については、加藤宗厚氏の「件名作業」にくわしい。たゞ  
同著については森耕一氏の図書館学今年報1960: Vol. 7 No. 12に於  
てに発表された書評が、その内容を的確にとらえて論評してついで。

私もBSHの分類別分布は当然得ているが、そのNDCの部門別、  
細別、目別とついで、各分類項目に該当するBSHの標目数の詳細なデータ  
については、出版される図書本体、所謂NDCの分類にあてはまるパター  
ンをもって刊行されていなければならぬ。BSHが対象として中小公共図書  
館の蔵書構成についてみても、各館の事情が異なるため一概に論議され  
ないのではないかと、思った次第である。

NSHとBSHとでは、その細目についても、用語・整理・ことばが  
相当な範囲に変更が見られた。

特殊細目についても熟語形式の採用を石坂氏の「図書館学」の著  
にBSHの残された問題として力説されている。これは古典的著作に用い

## 2. BSH 使用館としての体験

10.3

西宮図書館が件名目録の作成に踏み切ったのは、昭和29年5月か5月の国立国会図書館の印刷カード購入を契機とする。

従ってそれ以前購入の図書並びに、それ以後刊行のものである。印刷カードの無い図書については、件名目録の作成は考慮されなかつたためBSH(1956年2月に刊行)入手までは全面的に作成されたとはいえない次第である。

一時NSHによって作成しかけたものの、やはり新しい語彙に欠けるため、BSHの刊行を待って印刷カードの件名保留分約5,000冊分について作業をはじめ約4ヶ月で閉架に供し今日に及んでいる。勿論BSH刊行後の購入図書については、印刷カードの有無に拘わらず作成している。

BSHによる件名作業も印刷カードのトレーシングで見られる非常に細かい国立国会図書館採用の標目にとりすると左右され勝ちである。しかし西宮程度の中小図書館には不向きである。として相当数のカードを除外しているが、審議資料ス.153「追加採用して件名標目中NSHと重複採用分と新件名一覧」にみられる「建築儀礼」「糊料」「新派」「抜取検査」などは印刷カードのトレーシングを難否にしてみたが、BSHの基準がはる必要にはみだしてついている。

何れにしても、新設件名は控之目にして、新しい用語が使用している標目に対して「見よ」参照記入を設け、BSHの追加訂正に關する継続委員会というものの決定に従いたいと思う。

JLAの選定図書速報574回以降に、追加採用して件名標目一覧を付しているが、諸参照についての註記が見れないのは遺憾である。

BSHの全標目25/15中西宮図書館で採用したものは55年5月200現在、154/であり、追加は589となっている。(資料参照)

参照については、見よ参照は未作成で標目表に4エックを施し、

164  
BSHの使用法の項にあるように、大抵の件名標目が使用されれば  
に一括して作れるよう準備はしている。  
を見よ参照は768作成してが新設件名については台んど設けていない。

地名が冠する件名（日本のみ）を調査したと以下の通りであった。

地名を冠する形（日本）	55標目	254枚
地理細目（国家細目、日本）	55標目	719枚
地理区画	28標目	54枚
地名を添える形	1標目	17枚

これが実態調査の結果であるが、地理区画と地名を添える形の標目換  
用数は少く、やはり地名を冠する形と国家細目として日本を主標目とする件  
名が圧倒的に多かつた。尤も作業側が、BSHの使用法ごとく、地  
理区画を無視して主標目としての採用が多いのかも考えられた。

何れにしても使用館の体験としては、西管の場合公共図書館であ  
り標目決定者の異動も多く、BSHに詳述された使用法へのつとてた文  
充分になされていないのが現状であつてみれば、体験のみを以て批  
判どころか、BSHの体系を四離滅裂にしてのではないかと、という  
危惧が先立つ次第である。BSHとして当然とせねばならぬ標  
目がとせられていなくなつたり、とつてはならぬもの（例えは「インド思想」が  
平然と採用されていりするのは汗顔の至りである。

## ② 分類順件名標目表の追加について

ここに分類順件名標目表をあげるのは、分類目録の件名索引の作成と関連させておきたいのである。

尤もこの分類順件名標目表の追加については、石坂氏が「図書館界」11巻2号にBSHの残された問題として、「分類順件名標目表を付載すること、これは当初音順表と共に発表されるはずであつたが、頁数などの都合で割愛された。別冊として刊行されることを希望したい」と述べられ、藤田氏が「図書館雑誌」50巻4号に「補充追加のための用意を備えて、標目表の運命を永からしめるために、体系表の価値は軽視出来ないものと考へる」と書かれ、

さらに加藤氏が「BSHの作成に先立ちNSHをNDCの分類順に収録して体系表を作成し、NSH刊行以後の社会的、科学的の変動、発達、出版などの客観的情勢に即応するための新標目の追加をなすべし」とあるように、このような体系表があれば、分類表（論理的排列）に別れに件名作業者に比べて件名標目表全般の把握も出来、その件名作業も容易ではなかつた、と思われる。

さらに分類表の場合であれば、NDCの採用館でも展開された細目を参考にすることが出来たのであつかう、主標目以外にも出来れば、細字でも註記してあれば、利用度が増すのではないかと、いつか虫のいいことも考へたい。

と32「分類目録の件名索引と関連してである。この件名索引卡特については、山下氏が「件名目録の作り方」（商業房）に述べていられる。

即ち、分類目録一様義一の件名索引は、分類目録一様義一の分類項目（分類名辞）及び、その他必要な項目をあげて、分類目録一様義一の分類番号に参照し、アルファベット順（又は五十音順）に排列するべきである。

先の使用館の体験の項にも述べたように、西宮図書館の場合BSHの

10.6  
標目使用数は、25/5中154/1にすぎない。残り974の標目については、その標目に該当する新刊圖書の到着を待たねばならず空白である。

さらに西宮図書館はNDC5版の採用館であるため、新しい名称にだけているが、それを補うため、BSHの全標目からNDC5版への参照の形でこの件名索引カードを件名目録に挿入してはどうか、と思う。そしてそれを件名目録を完備するものであっても、利用者には無益な混乱をよこす。とは考えられない。

BSHが新しく採用した件名記入から著者記入への参照にしても、西宮図書館の場合、事務用にはあっても、閲覧用に著者目録がほしいため、充分に活用することができず、BSHの全標目を網羅出来ない。現在の件名目録に分類の索引（利用者には分類体系の把握は困難と思われる）としての件名索引カードの挿入はあながち専断とは思えない。

尤も件名の参照となる圖書は10年を限度としてそれ以前のものがいい。これは或いは不必要かも知れない。従って29年5月から件名を採用した西宮図書館も曲りなりにも丸6年を経過したのであるから、余り古い圖書についての考慮は些かナンセンスであるかも知れない。

しかし一般利用者にはやはり分類体系の把握は困難で音順排列の方が利用しやすいのではないか。また、何れも件名をとりより非常な体系化された分野はそのまま分類の体系を指示した方が親切ではないか、と思われる。

何れにしても分類順件名標目表が完成してからは、同一分類内での用語の範囲というが、標目の採用数が決定出来作業が全般的にスムーズに行くのではないか。その分類内で或る程度選択出来参照作成分について4エフを施せば（この場合分類目録を参照するに蔵書構成の把握が出来て一石二鳥とも思われた）……とも思う。この体系系の完成が待たれる次第である。

## 4. 件名参照の印刷カード化は可能か

件名参照については、マサの使用館の体験の項でも触れられたが、西宮図書館では、目見よ参照のみ作成し、目見よ参照については一応該当標目レ4エックを施し作成準備は整えてあるもの、まだ作成していない。しかし関連標目間を連結して目見よ参照の重要性は無視出来ないばかりでなく、件名実施後6年を経過して今日、頻度の多い主標目については、あふか<sup>レ</sup>採用され<sup>レ</sup>と考えて差支えないと思われた。従つて目見よ参照作成の時期は熟しているとも考えられる。

このような時「学校図書館」その他で、小、中学用ではあるが、印刷件名カード(京都出版K.K)作成が報せられ、非常に関心を呼つてゐるため、件名参照が作成されているかどうか照会して頂く次第である。

若し件名参照が印刷カード化されていけば、分類目録の印刷見本カード以上の効用はあり、採用命令レ4エックを施す手間と、そのレ4エック命令のみが採用件名であることを利用者へ周知させること<sup>が</sup>出来れば、活版印刷の見易は大変な魅力と一人合点してつた。(これはB5Hを対象と<sup>して</sup>は<sup>ない</sup>にかかわりなく)

しかし照会の返事には件名参照は作成していない由であつた。考えてみてもなく件名参照には該当件名(各館の)についてののみ作成するのである将来予想される使用件名まで引記されては件名作業者も、その利用者も徒らな混乱に陥るのは火を見るより明らかである。何等かの操作で解決出来るのではないか。目見よ参照はともかく、目見よ参照は記載事項が多いから、この印刷カード化が可能であれば随分助かる。といつか安易な虫のいいことを考<sup>へ</sup>て<sup>た</sup>次第である。

何れにしても早急に目見よ参照の作成が望ましい西宮図書館としては、この作業の能率化のためには、やはり印刷カード化の夢を断ち切れない。JLAあたりで一括印刷が試みられれば是非利用させてい<sup>て</sup>く<sup>ら</sup>い<sup>に</sup>思<sup>ふ</sup>。

## 5. 件名典拠ファイルについて

108

このファイルは、いわば一館の件名標目表がカード化された(冊子式もあつた)ものであり、適用している標目表の使用済標目に4エックし、新標目の追記や標目の変更、廃棄を行う代りに、その館が採用した標目についての「一標目一カード」で排列して行くのである。これは図書館ハンドブックに詳しく述べられているところである。

また、一般的な件名標目表には記載を全く省略した件名群がある。このうち地名、人名、団体名などは標目数が多いので、これらを使用のズバに標目表に追記する代りとして、「一標目一カード」で作成する。云々

引用が長くなつたが、一応以上の二つの場合が西宮図書館にも該当すると考えられる。

西宮図書館ではB5H判の冊子使用件名(参照を含む)に4エックを施し、追加分は余白に書き込んでいるが、2名の係員が協力して2冊の表に記入する。というのは作業能率からいっても余り感心出来ぬ。しかも、係員に異動があつたり、その記載位置も同一に行かぬ場合が往々にしてある。とすれば「尚更である。

これを正すためと、余白の書き入れもその限界に達したものの典拠ファイルの作成を思ひ立つた次第である。

しかし件名典拠ファイルと一口にいっても、全標目(追加を含む)の使用分の作成と、地名、人名、団体名のみ(この場合標目表の記載を転記する)の二つの場合が西宮図書館の場合考慮される。

京都府立図書館で追加分を「カード化する」という耳よりな話を聞き、早速その資料(「目録編成規則」の審議資料としての人名を「竹」の勝手印刷)を  
査

藤田氏から送っていただき、人名についての京都と西宮の対照表を作成していただきました。その表は次の通りです。

	京都	西宮
日本人名	179名	106名
中国人名	19名	12名
西洋人名	266名	142名

以上ですが、このような人名も、標目表の余白に記入されている場合どうしても通覧性がないばかりでなく、件名作業も一貫して同一人でないものの精粗も一目瞭然である。

また、図書館界第12巻第2号の目録編成規則委員会報告にある「主要人名標目表」の完成を間近とすれば、それも併わせて参考とし、採用人名の範囲の取捨の基礎にしなくては考えている。

このように考えてくると、西宮図書館の典拠ファイルは、その整理能力からいって、全標目をカード化するより、やはり「主要人名標目表」その他参考文献の多い個人名、団体名に限ってカード化し、(その際標目表に記載された該者使用標目のカード化は尤論含まれる) と思つていい。

全標目のカード化になると、余り厄大すぎて一寸午のつけようもない。尚多くは益あり(西宮図書館の整理能力からいって)と思われる。

新標目については去来で既に「見よ参照」で処理し、小件名の乱れを避け、現在まで採用したものについても再検討し去来で既に整備は行きなして考えている次第である。

以上でBSHにおける問題点について使用館の実態調査からつく体験を中心に述べて来たが、冒頭にも触れたようにBSHという完全な標目表を相手としては、所詮私などの女子輩ではないとの感も深くしるこも申し添え報告を終わります。(1960.7.13記)



# B5Hにおける問題点 討議資料

101

## 1. NJHとB5Hにおける件名標目の相違一覧表

図書館雑誌 Vol.50 No.4 「6,200 から 2,500 まで」 山下栄氏  
の一覧表参照のこと。

## 2. B5H使用館の体験

追加採択した件名標目中 NJHと重複採用分と新件名一覧

(但し B5Hの規定による記載を省略した件名群は原則として除外し、後に  
その数をあげた。なお V(チェック)は JLA の選定図書速報に掲載  
された追加採用の標目である。)

NJHとの重複分	新件名	NJHとの重複分	新件名
ア. アセチレン	合気道	キ. 木型	教員養成
アパート(アパートマン)	アツポリケ	黄金屋	行政監査
海女(海人)		吃音	キリスト教青年会
V. アルコール中毒		俠客	金属学
V. アンテナ		V. 銀行会計	金属表面処理
イ. 盲見法		金相学	金本位制
エ. 岡田奉	演算子(演算子法)	近東問題	勤務評定
オ. 大津絵	オシロスコープ <small>計器</small>	ク. 空気力学	
贈物	V. カウンセリング	軍備縮小	
カ. 会計学	学問の自由	ク. 螢光	経済学-計量学派
海賊	花粉	V. 経済数学	経済学-ロサンダ学派
化学平衡	カレー	V. 減価償却	V. 銃輪
ガス事業	官公庁会計(官庁会計)	元寇	劇文学
河童	化学構造	原人史 人類学	研究機関
看板		創舞	原子兵器
飼鳥			V. 原子炉
キ. 機械材料	記号論理学→論理学		遠唐使
V. 器械体操	季節風		研磨

NHKの重複分  
 航海計器 → 航用計器  
 工業用水  
 工作  
 合成ゴム  
 交通経済  
 校長  
 猪肉  
 コーヒー  
 国際主義  
 酒造り  
 サラリーマン → 俸給生活者  
 更紗(更紗模様)  
 散文  
 三民主義  
 士族  
 シベリア出兵(1918-1922)  
 司法書士  
 事務管理  
 指紋  
 執行猶豫(刑・執行猶豫)  
 自由港  
 精進料理  
 剰余価値  
 金虫植物  
 真空工学  
 信用 → 金融  
 荘園  
 人種問題  
 水利政

新件名  
 航海計器  
 香辛料  
 厚生年金  
 更新期  
 ニケル(→人形)  
 コルホーシ ← 集団農  
 ニンニク  
 サイクリング  
 貯蓄資金  
 サイハネテックス  
 資料管理  
 市場調査  
 建築材料  
 民族制度  
 事務機械  
 新業規則  
 重農主義 ← 経済  
 商売  
 シリコン  
 自律神台  
 シンクロスコープ  
 新語  
 新興宗教 ← 類似宗教  
 人工衛星  
 人民公社  
 水産学

NHKの重複分  
 水カクセン  
 七五界観  
 赤十字  
 潜水艇  
 船舶信号  
 駭音  
 逆球 ← ハルト木  
 傷兵  
 素数  
 損益計算  
 損害賠償  
 塔  
 特殊鋼  
 読書調査  
 賭博  
 奴隷

生産性  
 青年運動  
 青年学級  
 石炭化学工業  
 セロース → 繊維  
 創価学会  
 装置設計  
 促成栽培  
 大逆事件  
 タツノ盤  
 強劫制度  
 産学  
 中共軍  
 跳躍競技  
 定時制  
 鉄棒  
 テレドラマ → 放送  
 デンソル  
 天文  
 特殊部隊  
 トランジスター

NSHとの重複分	新件名	NSHとの重複分	新件名 16.3
ニ 性 娠			放射体化学
イ 農業地理	農業立地		不-ル盤台-作機械
ハ V ハニワ(塩輪)	農民文学	マ.	マイクロウエーブ
花火	V はまみ(鉄)	ミ. 身上相談	未用社会
及 押	醗酵工学		シイル → 誘導弾
犯罪心理学	V ハトミントン	メ. 綿織物	
	花札	モ. 模型地図	
	パンクカート	ヤ.	煙入れ法
	V 半導体	ユ. 友禅染	油圧機械
	美術商	エ.	ラジオ放送
ヒ. 秘密結社		リ. カ織機	飯海
器具	部落	流行	
フ. 不当利得	ア-1111111 ← 印刷回路 V.		若者感 ← 心理学
不法行為	ア-ハ (PH)	ロ.	V ロケット
ハ. ン画	ア=ヤ板		ロケット機関
	保育園		ロ-ル-シヤハテスト
ホ 帽子	封建制	ワ. 若者制度	
放埒	放射性物質	倭 冠	
	ニ	葉 工 品	

研究会発表時の資料から不適当なのは除外した。522222 44件名  
 と、該当書名を挙げると。

- 外国旅行 日本交通公社； 外国旅行案内。
- 学 界 日本学術振興会； 全国学協会要覧。
- 患 者 厚生大臣官房統計調査部； 患者調査。
- 同 接 費 フラメン； 同接費計算。
- グループ 婦人教育研究所； グループ事典。
- 建築儀式 伊藤平左エ門； 建築の儀式。
- 原 生 厚生省大臣官房企画室； 原生白書。
- 糊 料 菅野敏； 糊料の特性と応用。

以下略。

- BSHの標目使用数 (25年5月20日現在)  
 2515中 (988) 1541
- 右見よ参照 使用数 (25年5月20日現在)  
 1163中 (未調査) 768
- 追加採収した件名標目数  
 新設した普通件名 (所謂小件名) (71) 209  
 これに伴う「右見よ参照」 (4) (省略)
- 例示的にあげた件名群 (BSHにあげた以外の追加標目)
  - a. 宗教の宗派名、教派名 (1) 6
  - b. 国家間の戦争名 (251) 3
  - c. 法律名 (14) 54
  - d. 租税名 (1) 1
  - e. 教科名 (2) 4
  - f. 元素および化合物名 (7) 11
  - g. 薬品名 (1) 1
  - h. 植物分類の門、綱、目の名称 (1) 5
  - i. 動物分類の門、綱、目の名称、および目以下の動物名 (251) 4
  - j. 人体の器官名 (251) 2
  - k. 人体の総称的な疾病名 (1) 2
  - l. 機械・器具名 (5) 15
  - m. 金属名 (251) 6
  - n. 工業製品名 (1) 9
  - o. 農産物名 (251) 151
  - p. 楽器名 (251) 1
  - q. 業種名 (251) 2
  - r. スポーツ名 (1) 10
  - s. 公共機関の総称名 (1) 3
- 記載を省略した件名群

				No. 50
a.	個人名	日本	(34)	101
		外国	(54)	155
b.	個人名・団体名・施設名		(6)	33
c.	地名	日本	(12)	30
		外国	(5)	16
		その他地理的件名	(3)	5
d.	条約名, 国際会議名		(15)	4
e.	国家試験名, 検定試験名		(13)	27
f.	鐘物名, 岩石名		(11)	1
g.	各国のEPO及び特許庁の登録商標名		(2)	2
h.	樹木, 花, 果実, 蔬菜の名		(2)	2
i.	魚の名, 鳥の名		(2)	2
j.	人体の個人名・疾病名		(12)	30
k.	件名記入の対象とならざる書名		(18)	30
			(計282)	計589

(注: 以上 11. 27 の調査の数に括弧内に入る。)